

長崎大学FD スプリング・ワークショップ

【趣 旨】

長崎大学の学士課程教育の充実に向けて、学生主体の学習形態（アクティブ・ラーニング）を様々な工夫していくことが求められている。このスプリングワークショップでは、授業でディベートを活用して思考力を高める方法と、学生の批判的思考力を評価し育成する方法の、2つのプログラムを用意し体験的な活動を通して習得を進めるもの。

【対 象】 全教職員（非常勤を含む）

【主 催】 教務委員会

【企画・実施】 評価・FD 教育改善専門部会

1. ワークショップA「授業におけるディベート活用法」

【趣 旨】

論理的思考を深め、情報収集と分析を手際よく遂行して説得力あるプレゼンテーションをするためには、ディベートの導入が効果的と考えられる。そこで、ディベート教育の第一人者を講師として招き、授業におけるディベート活用の基本を体験的に習得する。

【日 時】 平成24年 3月13日（火）13:00～16:30

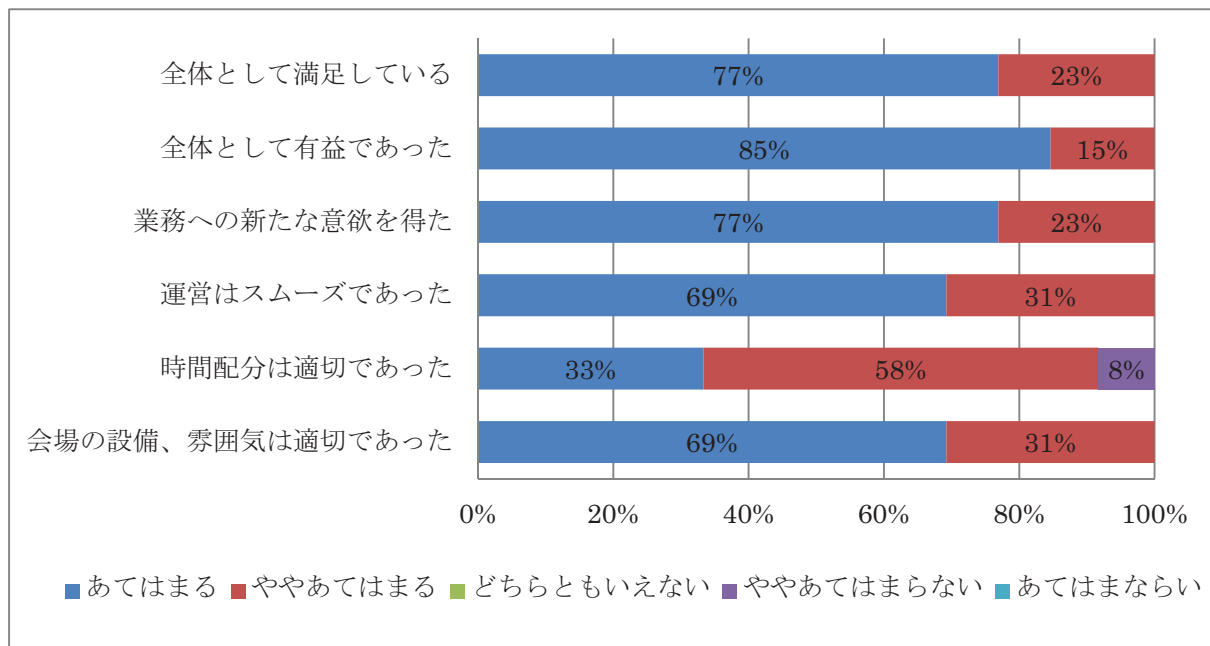
【場 所】 教育学部本館401室（41番教室）

【講 師】 松本 茂氏（立教大学教授）

【参加者】

16名（受講証発行対象者：16名）

所属	役職名	人数
教育学部	准教授	1
経済学部	教授	2
医歯薬学総合研究科（医系）	准教授	2
	助教	1
医歯薬学総合研究科（保系）	教授	2
医歯薬学総合研究科（歯系）	助教	1
医歯薬学総合研究科（薬系）	教授	1
水産・環境科学総合研究科（環境）	教授	2
	准教授	2
先導生命科学研究支援センター	助教	1
留学生センター	准教授	1



○今回参加なさって、何か感想や意見がありましたら、ぜひ率直にご記入ください。

- ・とっても楽しく勉強できた。(医歯薬学総合研究科(保系)・教授)
- ・大変参考になった。講義に活用したいと思う。(水産・環境科学総合研究科(環境)・准教授)
- ・より勉強して授業に活用できるようにしたいと本気で思った。(医歯薬学総合研究科(歯系)・助教)
- ・もっと時間が欲しかった。(医歯薬学総合研究科(歯系)・助教)
- ・論理的に話すことが、こんなに難しいとは思わなかった。(教育学研究科・准教授)
- ・楽しかった。Try and error しながら、授業に取り入れたい。何本かのDVDも見なかった。(医歯薬学総合研究科(薬系)・教授)
- ・演習を組み込むことで、非常に理解が深まった。(経済学部・教授)
- ・体験などの時間も有り、非常に身に付くFDであった。(医歯薬学総合研究科・助教)
- ・演習をもっとやりたかった。(医歯薬学総合研究科(保系)・教授)

○今後、FD・SDのテーマや実施方法などに関してご希望がありましたら、ご記入ください。

- ・今回のFDは多くの教員に勉強して欲しいと思う。(医歯薬学総合研究科(保系)・教授)
- ・協働(協働学習)の方法論を知りたい。(教育学研究科・准教授)

【総括】

授業へのディベートの導入について、講師による説明、DVD等による実践例の提示、参加者によるディベート演習などを盛り込んだ、非常に密度の高いFDが行われた。講師による説明の途中にも講師と参加者と間で自由に質疑応答や議論が交わされ、またディベート演習を通じ異なる部局の教職員間の意思疎通も図られるなど、双方向のコミュニケーション度の高いものとなった。

アンケートの結果においても、「時間配分」を除くすべての質問項目で「あてはまる」と「ややあてはまる」をあわせて100%の参加者が肯定評価を示している。講師から授業導入のための指導案が具体的に示されるなど実践を意識した内容であり、「授業に積極的に活用したい」との感想が自由記述にも多数みられた。授業改善に直結する非常に有意義なFDであった。

2. ワークショップB「批判的思考力の評価と育成法」

【趣 旨】

批判的思考力は学士力や社会人基礎力の基盤をなすもので、その育成は容易ではない。そこで、批判的思考力の評価測度や教材の開発に関わってこれ、また多様な教育事例に通じておられる楠見孝氏を講師として招き、授業で批判的思考力を高めるための具体的な方法を習得する。

【日 時】 平成24年 3月29日（木）13:00～16:00

【場 所】 教育学部本館401室（41番教室）

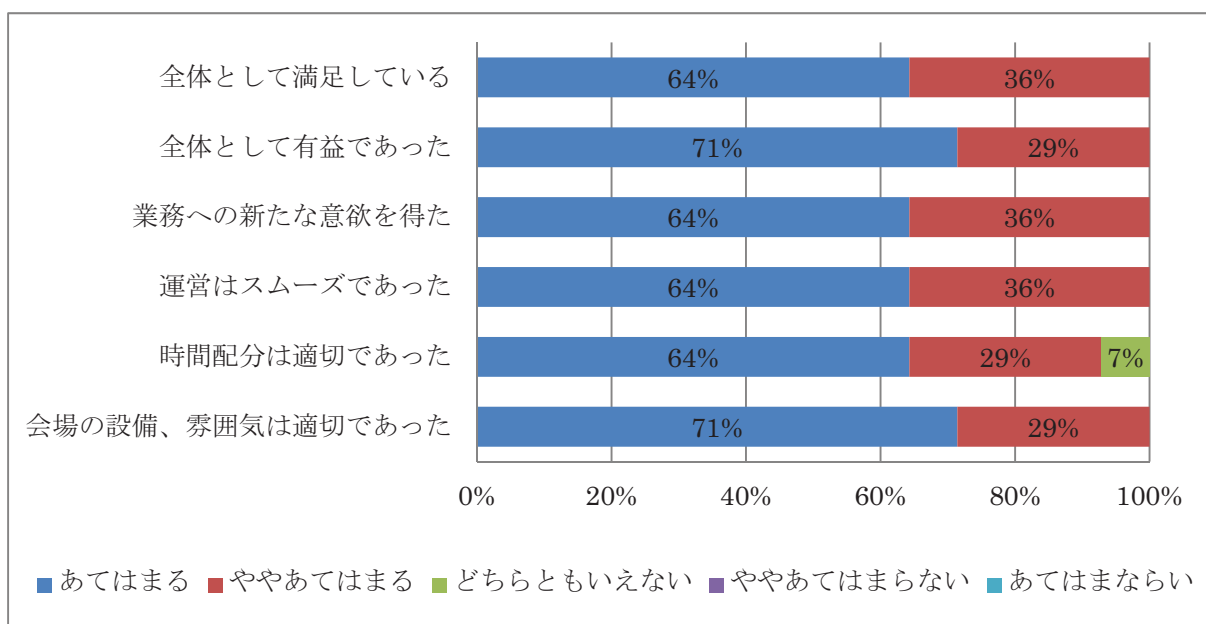
【講 師】 楠見孝氏（京都大学教授）

【参加者】

15名（受講証発行対象者：15名）

所属	役職名	集計
教育学部	教授	1
経済学部	教授	1
医歯薬学総合研究科（医系）	准教授	1
	助教	1
医歯薬学総合研究科（保系）	教授	2
	助教	1
医歯薬学総合研究科（歯系）	准教授	1
	助教	1
医歯薬学総合研究科（薬系）	教授	1
水産・環境科学総合研究科（環境）	教授	2
国際健康開発研究科	教授	1
先端生命科学研究支援センター	助教	1
アドミッションセンター	准教授	1

【参加者からの評価】



○今回参加なさって、何か感想や意見がありましたら、ぜひ率直にご記入ください。

- ・揺さぶられました。深く、「生きる」ために必要な考え方と感じた(学というより)。(教育学部・教授)
- ・楽しかった。ぜひ授業に取り入れたい。(医歯薬学総合研究科(保)・教授)
- ・批判的思考に関する研究、実践についての最近を知ることができて良かった。(アドミッションセンター・准教授)
- ・今後はアドバンスを！(医歯薬学総合研究科・准教授)
- ・とても勉強になった。(医歯薬学総合研究科(保)・助教)
- ・情報量が多く、飲み込めないままに進んだ。じっくりと考えながら聞きたかった。内容は濃かった。(医歯薬学総合研究科(薬)・教授)
- ・全体の進行がやや速すぎたが、さらに研究してみたい内容だった。
- ・大変勉強になった。(助教)
- ・分かりやすい話だった。(医歯薬学総合研究科(医)・准教授)
- ・今後も体験型のFDが非常に理解度が上がるので続けてもらえればと思う。(医歯薬学総合研究科・助教)
- ・講義→ワークショップ→講義　まとめ　この時間を十分とって欲しい。(教授)

○今後、FD・SDのテーマや実施方法などに関してご希望がありましたら、ご記入ください。

- ・実際の論文を批判的思考で実習する。(医歯薬学総合研究科・准教授)
- ・ワークショップをしながら、質問やディスカッションがあった方が良い。(教授)

【総括】

学生の批判的思考力を育成するために必要な、批判的思考に関する基礎的な理論や最近の実践を、その第一人者である楠見孝先生に概説していただいた。同時に、演習を取り入れた、充実したワークショップであった。参加者からは、上記コメント欄にみられるように、授業方法を再考させられた、授業に活用したいことが数多くあったという意見が数多く聞かれた。比較的少人数の参加であったため、質疑応答や意見交換も活発であり、さらにグループ演習を通して、参加者同士で批判的思考に対する理解の違いを知り、理解度をより高めることができた。

ただ、時間が限られ、やや駆け足ペースであったため、もっとじっくりと考えながら聴講したかった、質問やディスカッションに十分な時間がほしかったという意見があった。今後の要望として、実際の論文を用いた演習やアドバンスコースの実施があった。

このようなFDは、一回限りで終わるのではなく、受講後の授業での適用経験からのフィードバックをもとに、フォローアップ・ワークショップを実施するなど、継続性がある、成果確認的なFDにしていくことが重要ではないかと考える。